

平成29年1月
第013号



山家神社社務所
sanadashrine.com/yamaga
〒386-2201 上田市真田町長 4473
Tel.0268(72)5700

山家 慎聞

山家郷塾理念

一、自然の恵みと祖先の恩とに感謝し、日々お蔭さまの心を以て郷生の道を歩むこと
一、地域の歴史・文化・伝統を学び考へ今を照らし、故郷の振興と再生を図ること
一、永遠と続く歴史の中にある今を意識し、祖先から受け継いだモノを守り伝えること

酉年に

子供の頃は一日がこんなに長いのかと思っていました。が現在は遠い昔。あつとつい間に申から酉へ。おつとこれは桃太郎の仲間が続くので明るい兆しがあるでしょう。

日本の神代の昔、太陽の神様（天照大御神／神棚の中心にお祀りしている神様）が辛い出来事に遭い岩窟にこもり世の中が真っ暗になったと云います。その時知恵のある神様たちは相談し、なんとかして太陽の神様にお出でいただくとう奮闘します。実はそこに鶏が登場するのです。

「常世の長鳴鳥」とその他たくさんの事（省略）により見事誘い出すことに成功します。夜明けを告げ、闇を払い太陽を呼び覚ます使者。ただ真田としては酉つながりで雁金にも願いを託したい。本年の絵馬がこちら↓
画 大塚なお美氏
山家神社の目覚めは地域の光明へと



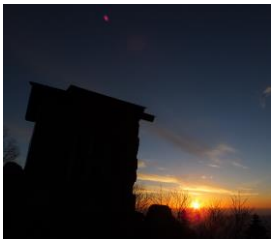
四阿山開山三三〇〇年



生命の根源を支え守る、神川水系一帯の尊い水を始めとする自然の恵み、その源である四阿山にご先祖様たちは神を感じ、故郷に生きてきました。荒ぶることのないよう、変わらず民を潤すように、日々の暮らしの中で人々は太陽、山、川、生きる物生きた者に感謝し手を合わせた、これが山家神社が宗教ではないと言われる由縁であり起源でもあります。自然と共生していた時代に産まれた、自身は自然の中の一部分であると感じた人の一つの行動であるから…。

時は移り養老年間（七一七〜七三三）、吉田堰が開削され、神川の水がより広域な大地を潤すこととなります。社伝には「本社別当浄定といつも越の泰澄の徒弟にして加賀の白山を信仰し、其の神霊を勧請、養老二年（七一八）奥宮を四阿山絶頂に奉遷す」とあり、この浄定という行者一行が霊峰白山の用水技術を学びその英知をこの地に伝播、生活の恵みの源泉である四阿山を登り拝し、神の世界である御山と人の住む世界である里をつなげたものと云われます。

それから数え来年は開山一三〇〇年を迎えます。本年は四阿山特集組みます。特に神川水系の皆様には、生活の一部にあつた山家神社を、遺伝子の中に思い出していただくことが出来れば幸いです。
【写真：四阿山登山家 児島祐介氏】



節分祭

二月三日 金
豆まき 午後一時すぎ

今年もあの鬼がやってきます。怖いか優しいか騒がしいか大人しいか、楽しみですね。実は社殿の中では官司は「鬼は外」とは言わないのです。



豆を播くのは予祝（あらかじめいわう）といわれる農作物への祈りとも。神社には教科書がありません。地域の暮らしの中に答えがあります。

【白山大権現の掛軸】を授与します。また今後可能であれば大河真田丸での真田郷縁の役者さんを継続してお招きすることができたらと願っております。

真田氏の祈禱所?!

「白山寺が真田氏の祈禱所だったと思われる…」この憶測の話が世に出回り、元は白山寺だったので何か？との質問に閉口するばかりなので説明を。

歴史の全体を見ず一点だけ捉えるのは信仰を恣意に歪めるものとも思いますが、上田藩の時代には別当（白山寺住職）が力を持っていました。江戸期の白山寺日誌には藩主の参拝等『山家社』にて白山寺差配のもと別当及び禰宜が行う、祭典において禰宜左側別当右側より本殿に登り：白山寺再建されぬ数十年山家社に十一面観音安置云々：等あくまで山家社においての白山大権現なのです。お坊さんも神主も神前に奉仕する存在。神であり仏、発信力の弱い神社ではありますがここをせめて真田の人には記録にある正しい歴史を理解していただきたく存じます。ちなみに燈籠、仁王護国般若供養塔も白山寺ではなく白山大権現（山家社）ですので訂正願います。